

ハテナボックス（先生用・進行シート）

領域・形態・時間	話すこと（やり取り） 代表＋クラス全体 15分
ねらい	箱の中のものを手ざわりで当てる。「見えない」からこそ What's this? のやり取りに必然が生まれる。

やり方 この流れでやってみよう

- 1 A volunteer comes up. Hands in the box!
代表1人が前へ。箱の中に手を入れる（中は見ない）
- 2 Everyone: What's this?
見ている全員が声をそろえて What's this? と聞く（役の逆転がこの活動の妙）
- 3 Volunteer: Hmm... It's ... a ball?
さわっている子が、手ざわりをたよりに英語で答える
- 4 Open! Check together.
取り出して答え合わせ。当たっても外れても大かっさい

中身のえらび方（安全第一）

よい中身（例）	ボール・ぬいぐるみ・消しゴム・スポンジ・大きめのブロック・お手玉・ミニカー
入れないもの	とがったもの（えんぴつ・はさみ）・こわれやすいもの・小さすぎるもの（誤飲サイズ）・ぬれているもの
もりあがる中身	「英語で言えるもの」に限定しなくてよい。日本語で当てて→全体で英語に直す、で学びになる

進行の型：代表1人×2分×6人＝12分。さわる代表は挙手制＋「見て当てる側」の3択ヒント（It's a ball? It's a car? It's an eraser?）で全員参加にする。

ルール

（子どもへ）①中をのぞかない（手ざわりだけ！） ②さわっている友だちをせかさない ③こたえがはずれても、ぜったいにわらわない（ドキドキにはくしゅ！）

☆レベルアップ！ スペシャルラウンドは「ALTの先生がさわる番」。みんなで What's this? ― ヒントをあげたくなったら、Color hint! とさげんでいいよ。

先生へ（運用のコツ・中間指導）

- ・「見ている側が What's this? と聞く」役の逆転がこの活動の設計の核。全員がたずねる練習を6回できる
- ・感覚過敏の子には無理をさせない（さわる代表は必ず挙手制）。見て当てる側の3択で活躍の場を作る
- ・中身を教室の「英語で言えるもの」に半分寄せておくと、答え合わせがそのまま語彙の復習になる